

2020年3月期 第3四半期

決算説明資料



2020年2月5日

株式会社 **ダイセル**

目次

1. 2020年3月期 第3四半期決算	P. 3
2. 次の成長に向けて	P. 6
3. トピックス	P. 10
4. 参考資料	P. 12

2020年3月期 第3四半期業績（累計）

（単位：億円）

	19/3 3Q 実績	20/3 3Q 実績	前年同期比	
			増減	%
売上高	3,569	3,128	△ 441	△12.4%
営業利益	448	226	△ 222	△49.5%
経常利益	479	243	△ 237	△49.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	331	46	△ 284	△86.0%
為替レート USD/JPY	111	109		

セルロース	売上高	645	562	△ 83	△12.9%
	営業利益	129	83	△ 46	△35.7%
有機合成	売上高	684	607	△ 77	△11.3%
	営業利益	115	75	△ 39	△34.4%
合成樹脂	売上高	1,353	1,266	△ 86	△6.4%
	営業利益	170	155	△ 15	△8.7%
火工品	売上高	832	619	△ 212	△25.5%
	営業利益	147	29	△ 118	△80.1%
その他	売上高	56	74	+17	+30.7%
	営業利益	4	3	△ 1	△20.9%
全社	営業利益	△ 116	△ 119	△ 3	△2.3%

通期予想 (※)	進捗率 %
4,310	72.6%
360	62.9%
380	63.9%
215	21.6%
107	

770	72.9%
112	74.3%
850	71.4%
125	60.1%
1,710	74.1%
224	69.1%
875	70.8%
53	55.3%
105	70.2%
6	48.5%
△ 160	74.3%

（前年同期比）

第3四半期累計期間の業績は、中国の景気減速の影響、インフレ率の販売数量減少や販売品種構成の変化、酢酸セルロースの販売数量減少、為替影響、などにより、減収、営業利益は減益となりました。

また、第3四半期会計期間において、火工品事業で特別損失（減損損失）を計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は大幅な減益となりました。

（予想比）

第3四半期会計期間において、中国の景気減速の影響などで、有機合成事業、合成樹脂事業の需要が想定より低調に推移したことなどにより、売上高、営業利益は想定を下回る結果となりました。

また、火工品事業での特別損失（減損損失）計上により、親会社株主に帰属する四半期純利益は想定を大きく下回る結果となりました。

セグメント別 売上高・営業利益（前年同期比）

（単位：億円）

売上高

	2019/3 3Q累計	2020/3 3Q累計	増減	増減率	分析		
					数量差	単価差	単価差の内 為替影響
セルロース	645	562	△ 83	△12.9%	△ 64	△ 19	△ 9
有機合成	684	607	△ 77	△11.3%	△ 38	△ 39	△ 4
合成樹脂	1,353	1,266	△ 86	△6.4%	△ 43	△ 43	△ 15
火工品	832	619	△ 212	△25.5%	△ 174	△ 38	△ 9
その他	56	74	+17	+30.7%	+17	-	-
合計	3,569	3,128	△ 441	△12.4%	△ 305	△ 136	△ 38

営業利益

	2019/3 3Q累計	2020/3 3Q累計	増減	増減率	分析			
					数量影響	価格影響	価格影響の内 為替影響	その他
セルロース	129	83	△ 46	△35.7%	△ 46	△ 15	△ 6	+15
有機合成	115	75	△ 39	△34.4%	△ 22	△ 5	△ 1	△ 13
合成樹脂	170	155	△ 15	△8.7%	△ 4	△ 4	△ 6	△ 7
火工品	147	29	△ 118	△80.1%	△ 127	△ 22	△ 0	+31
その他	4	3	△ 1	△20.9%	△ 1	-	-	-
全社	△ 116	△ 119	△ 3	△2.3%	-	-	-	△ 3
合計	448	226	△ 222	△49.5%	△ 202	△ 44	△ 14	+25

2020年3月期 通期業績予想

(単位：億円)

	19/3 実績	20/3 前回予想 (※)	20/3 今回予想	前年度比		前回予想比	
				増減	%	増減	%
売上高	4,649	4,310	4,200	△ 449	△9.7%	△ 110	△2.6%
営業利益	512	360	310	△ 202	△39.4%	△ 50	△13.9%
経常利益	534	380	325	△ 209	△39.2%	△ 55	△14.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	353	215	70	△ 283	△80.2%	△ 145	△67.4%
為替レート USD/JPY	111	107	108				

セルロース	売上高	832	770	755	△ 77	△9.3%	△ 15	△1.9%
	営業利益	160	112	110	△ 50	△31.3%	△ 2	△1.8%
有機合成	売上高	895	850	810	△ 85	△9.5%	△ 40	△4.7%
	営業利益	144	125	105	△ 39	△27.0%	△ 20	△16.0%
合成樹脂	売上高	1,759	1,710	1,685	△ 74	△4.2%	△ 25	△1.5%
	営業利益	206	224	211	+5	+2.3%	△ 13	△5.8%
火工品	売上高	1,079	875	850	△ 229	△21.2%	△ 25	△2.9%
	営業利益	156	53	43	△ 113	△72.4%	△ 10	△18.9%
その他	売上高	84	105	100	+16	+19.6%	△ 5	△4.8%
	営業利益	6	6	4	△ 2	△32.1%	△ 2	△33.3%
全社	営業利益	△ 160	△ 160	△ 163	△ 3	△1.7%	△ 3	△1.9%

(前年度比)

中国の景気減速の影響、インフレータの販売数量減少や販売品種構成の変化、酢酸セルロースの販売数量減少、為替影響、などにより、減収、営業利益は減益となる見通しです。加えて、火工品事業での特別損失（減損損失）計上により、親会社株主に帰属する当期純利益は大幅に減益となる見通しです。

(前回予想比)

中国の景気減速の影響などにより、有機合成事業、合成樹脂事業の需要が想定より低調に推移しており、第4四半期以降も同様の状況が続く見通しであることから、減収、営業利益は減益となる見通しです。加えて、火工品事業での特別損失（減損損失）計上により、親会社株主に帰属する当期純利益は大幅に減益となる見通しです。

なお、新型コロナウイルスによる影響は織り込んでいません。

新体制での基本方針

当社は2019年11月1日に、2020年3月期 第2四半期決算説明資料において以下の「収益回復と次の成長に向けた基本的考え方」を掲げました。

1. **既存の組織を抜本的に見直します。**
2. **今できるコストダウンを徹底するとともに、基盤強化の取り組みを加速し、来年度以降の収益回復に全力を挙げます。**
3. **新事業創出、M & Aを加速、強化します。**

これらの考え方にに基づき、必要な施策を迅速に推進し「スピード&シンプルな改革」に取り組んでいます。それらの取り組みの進捗についてご報告します。

1. 既存組織の抜本的な見直し

当社は、2019年10月に実施した、全社横断的な戦略推進の加速を目的としたコーポレート組織改革に続き、2020年4月1日付でビジネスユニット(BU)による組織改革を行います。現在のカンパニー制組織から以下の「戦略ビジネスユニット(SBU)」を中心とする組織に移行します。

この組織改革は、当社の体質をより「マーケットイン型」に転換し、当社がこれまで以上に社会的ニーズに対応する「価値」を提供していくための第一歩です。

(1) 価値提供型SBU ～より市場に密着した体制に～

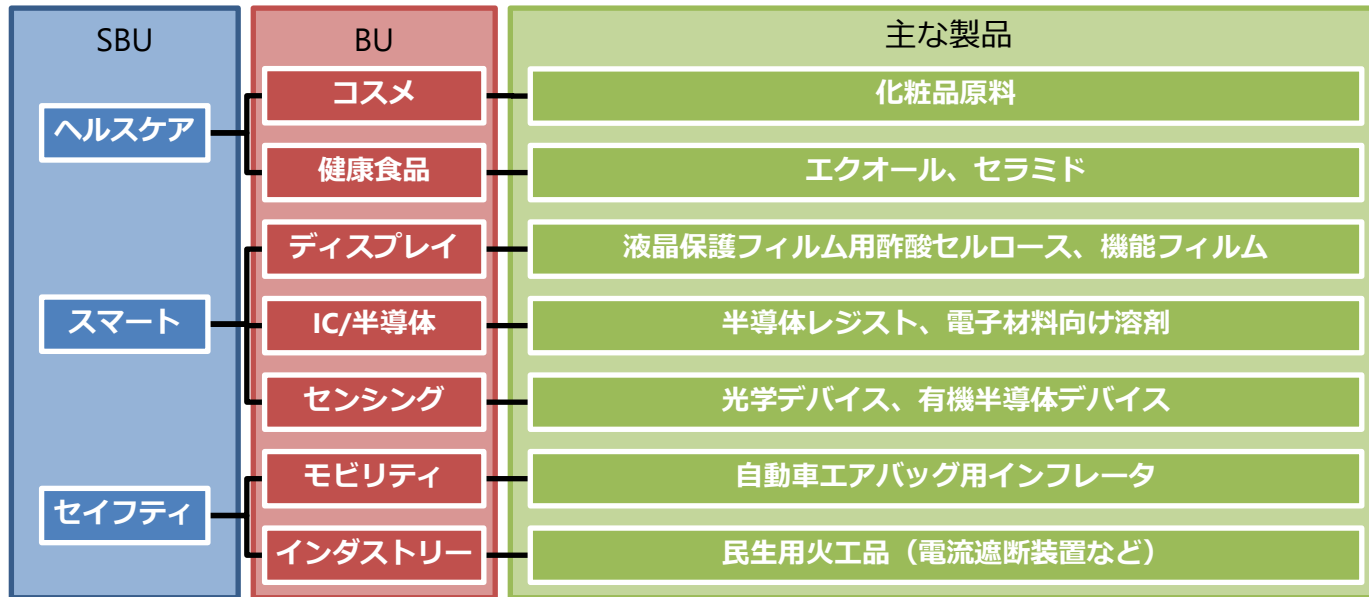
「ヘルスケア」「セイフティ」「スマート」を、社会の激しい変化の中でも求め続けられる普遍的価値と定め、「価値提供型SBU」として組織化します。従来のプロダクトアウト型の事業体制から、マーケットイン型の体制に変えることで、潜在的な社会ニーズを掘り起こして解決する「課題発掘企業」を目指します。各SBUの下に、関連する市場に向けた製品群によるBUを設置します。

(2) 素材提供型SBU ～長年の技術と製品を活かした事業活動を実施～

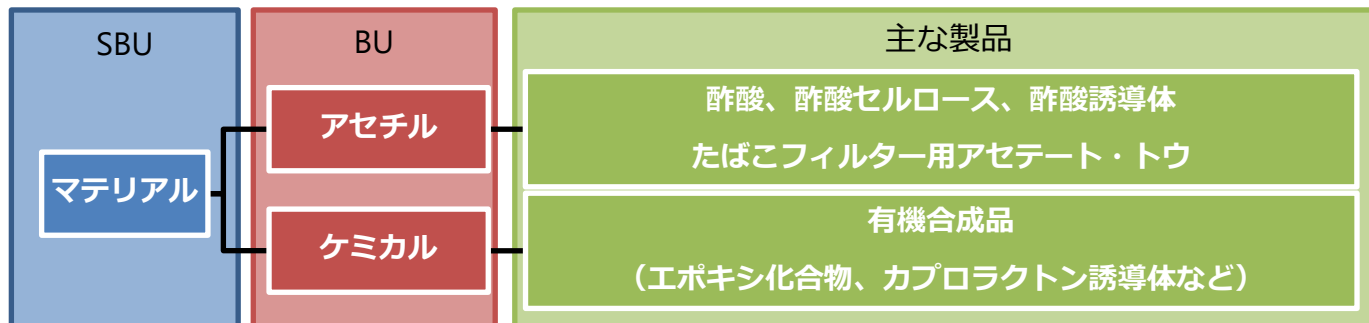
従来のプロダクトアウト型の体制で成長させる事業を「素材提供型SBU」として「マテリアルSBU」を組織し、その中に「アセチルBU」と「ケミカルBU」を設置します。

1. 既存組織の抜本的な見直し

価値提供型SBU：組織図と主な製品群



素材提供型SBU：組織図と主な製品群



2. コストダウンの徹底と基盤強化の加速

(1) コストダウン

全社を挙げてコストダウンに取り組んでおり、第2四半期決算発表資料でお示した109億円のコストダウン達成については、ほぼ計画通りに進捗しています。

(2) 生産体制再編・不採算事業の整理

自動車安全部品事業のグローバルの生産体制再編の一環として、一部の生産について、日本、米国から、より競争力の高いタイ、中国への移管を進めています。

これにより、固定費削減、生産性向上による同事業の収益回復を見込んでいます。この移管に伴う日本、米国の生産縮小により投資額の回収が困難となるため、減損損失を計上しています。また、防衛関連事業においても、収益性の低下により投資額の回収が困難なことから減損損失を計上しています。当社が第3四半期決算で計上している減損損失額は全体で137億円です。

なお、防衛関連事業については、事業の撤退を前提に関係各所と協議を続けています。

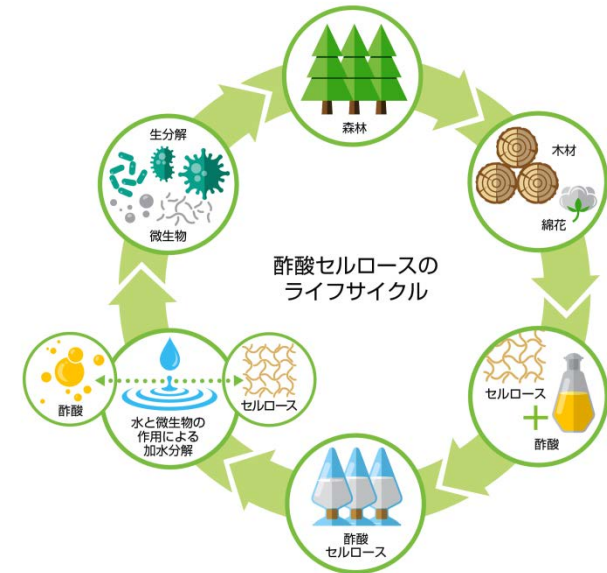
3. M&Aの加速、強化

2020年1月に、有機半導体単結晶成膜の最先端技術を有するベンチャー企業パイクリスタル株式会社を子会社化しました。詳細はトピックスをご覧ください。

その他のM&A案件についても積極的に取り組んでいます。

酢酸セルロースの生分解性を向上 アセチル

当社は、環境にやさしい天然由来のプラスチック「酢酸セルロース」の海洋での生分解性を従来の2倍に向上させた新製品を開発しました。一般的なプラスチックは分解に数十年から数百年を要するとされます。その代替として数か月から数年で分解される酢酸セルロースの使用を提案することで、海洋プラスチックごみ問題の解決に貢献していきます。今後、新製品の用途開拓を進めます。



パイクリスタル株式会社を子会社化 センシング



パイクリスタル社は、高性能な有機半導体単結晶の成膜技術を独自開発し、フィルム状のフレキシブルかつ薄型の有機半導体デバイスを開発・製造・販売しています。当社は、印刷技術を用いて電子回路やデバイスを形成するプリンテッド・エレクトロニクス(PE)を注力分野の一つと定め、PEに特化した溶剤やPE材料を製造しています。今後のAI/IoTの急速な成長に対応すべく、当社が持つPEの材料開発力・生産技術と、パイクリスタル社の最先端技術を融合し、有機半導体デバイス(集積回路、センサー)の量産体制を速やかに整え、事業化を加速させます。

ウェルエイジング・ブランド「WELLMETHOD®」を立ち上げ

健康食品

当社は、大人の女性のためのウェルエイジング・ブランド「WELLMETHOD®」を立ち上げ、ブランドサイトを開設しました。

40代からの女性に特化した総合ヘルスケアブランドとして、商品やメソッドをお届けします。



ソイエクオール



ピュアセラミド



みかんのセラミド



ふるきら生活

こんにやくセラミドがアルツハイマー病の発症予防に効果

健康食品

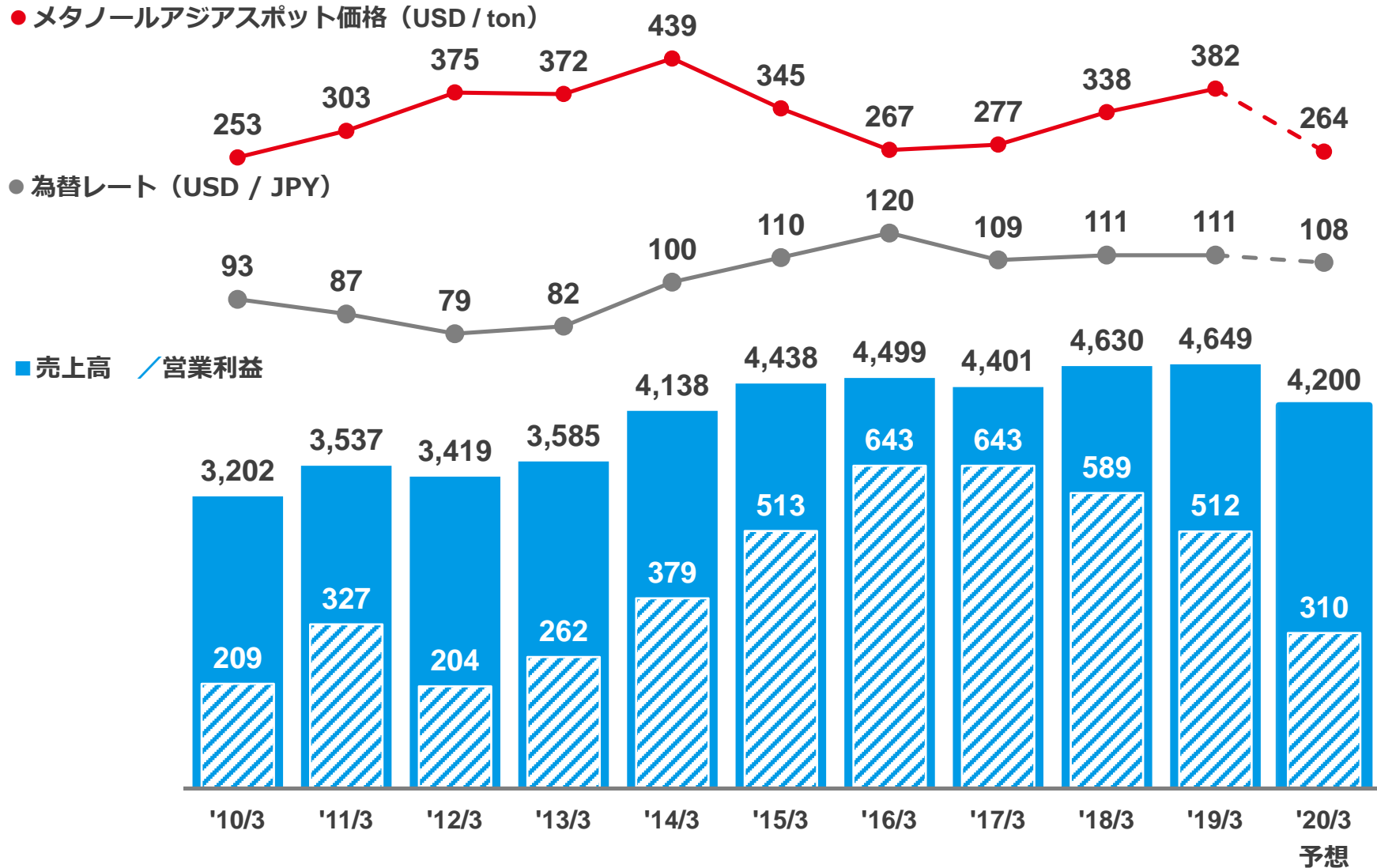
当社は、北海道大学との共同研究において、当社の機能性食品素材である植物性（こんにやく由来）のセラミドが、アルツハイマー病の発症を予防する効果を持つことを発見しました。

今回の知見を新たな機能性食品や新薬開発に繋げていくとともに、植物性セラミドの認知機能改善効果のさらなる検証に取り組みます。

参考資料

売上高・営業利益の推移と予想

(単位：億円)



連結貸借対照表

(単位：億円)

		2019年 3月末	2019年 12月末	増減	備考
流動資産		3,540	3,082	△ 458	
	現預金及び有価証券	1,203	827	△ 376	
	受取手形及び売掛金	902	852	△ 50	
	棚卸資産	1,262	1,179	△ 82	
	その他	174	224	+50	
固定資産		3,008	3,079	+71	
	有形固定資産	1,974	2,078	+103	新規取得+392, 償却△204, 減損△131, 他+46
	無形固定資産	127	115	△ 12	
	投資その他資産	907	886	△ 20	
資産合計		6,548	6,161	△ 387	
負債		2,315	2,112	△ 203	
	有利子負債	1,043	936	△ 107	社債△100
	その他	1,272	1,176	△ 96	
純資産		4,232	4,049	△ 183	自己株式△113, 自己資本比率 61.0%
負債純資産 合計		6,548	6,161	△ 387	

連結損益計算書

(単位：億円)

	2019/3 3Q累計	2020/3 3Q累計	増減	増減率	備考
売上高	3,569	3,128	△ 441	△12.4%	
売上総利益	1,054	837	△ 218	△20.6%	
販売費及び一般管理費	606	610	+4	+0.7%	
営業利益	448	226	△ 222	△49.5%	
営業外損益	31	16	△ 15	△47.9%	為替差損益△11
経常利益	479	243	△ 237	△49.4%	
特別損益	25	△ 121	△ 146	-	減損損失△137, 受取保険金△10
税金等調整前 四半期純利益	505	122	△ 383	△75.9%	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	331	46	△ 284	△86.0%	
営業利益率	12.5%	7.2%	△5.3%		

セグメント別 売上高・営業利益（四半期推移）

（単位：億円）

売上高	2019/3				2020/3		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
セルロース	199	221	224	188	182	197	183
有機合成	227	224	232	211	207	204	196
合成樹脂	441	454	457	406	414	431	421
火工品	273	282	277	247	214	209	197
その他	14	15	27	27	23	28	24
合計	1,155	1,197	1,217	1,079	1,039	1,068	1,021

営業利益	2019/3				2020/3		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
セルロース	39	47	44	31	33	30	20
有機合成	38	33	44	29	33	21	21
合成樹脂	59	60	51	37	53	64	38
火工品	50	48	49	9	13	10	6
その他	1	1	1	2	0	2	0
全社	△ 40	△ 41	△ 35	△ 44	△ 41	△ 41	△ 37
合計	147	148	153	64	92	87	48

通期業績予想（2020年3月期）

（単位：億円）

		前回発表予想（19/11/1）			今回発表予想			差異
		上期実績	下期予想	年間予想	上期実績	下期予想	年間予想	
	セルロース	378	392	770	378	377	755	△ 15
	有機合成	411	439	850	411	399	810	△ 40
	合成樹脂	845	865	1,710	845	840	1,685	△ 25
	火工品	423	452	875	423	427	850	△ 25
	その他	50	55	105	50	50	100	△ 5
売上高		2,107	2,203	4,310	2,107	2,093	4,200	△ 110
	セルロース	63	49	112	63	47	110	△ 2
	有機合成	54	71	125	54	51	105	△ 20
	合成樹脂	117	107	224	117	94	211	△ 13
	火工品	23	30	53	23	20	43	△ 10
	その他	3	3	6	3	1	4	△ 2
	全社	△ 81	△ 79	△ 160	△ 81	△ 82	△ 163	△ 3
営業利益		179	181	360	179	131	310	△ 50
経常利益		187	193	380	187	138	325	△ 55
親会社株主に帰属する当期純利益		117	98	215	117	△ 47	70	△ 145
（参考）為替レート USD/JPY		109	105	107	109	105	108	


前提条件

		2019/3		2020/3 前回見直計画 (2019/11/1)		2020/3 今回見直計画	
		上期実績	下期実績	上期実績	下期 見直計画	上期実績	下期 見直計画
為替レート (USD/JPY)		110	112	109	105	109	107
原料	メタノール アジアスポット価格 (USD/ton)	403	360	277	300	277	250
	原油 ドバイ (USD/bbl)	73	65	64	60	64	61
	国産ナフサ (円/kl)	50,850	47,600	42,800	40,000	42,800	41,500

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ご使用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

本資料の著作権は株式会社ダイセルに帰属します。

いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。